

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 30-006

PDCA	事務事業名	博物館展示等整備事業	部課等名	教育部 博物館	担当	秋山	
					内線等	23-7173	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 3. 文化の継承と創造 単位施策： (2) 文化の振興 個別施策： ②博物館の活用					
	根拠法令等	博物館法、半田市立博物館条例、半田市立博物館条例施行規則					
	対象・目的	郷土の歴史、伝統文化や科学、芸術への市民の理解を深めるため、博物館が所蔵する貴重な資料の展示・活用方法の見直し及び後世に伝えていくための保護を行う。					
	目的を達成するための手段・活動内容	市内全小学校の3年生が郷土学習で来館する際に使用している映像ソフトの内容を更新する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①小3映像ソフトの更新	—	—	1	件	
		事業費			2,695	千円	
		人件費			963	千円	
		総事業費			3,658	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①市民1人あたりの小3映像ソフトの更新コスト	—	—	31	円		
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①博物館年間入館者数	実績値			89,128	人
			目標値			100,000	
②小3映像ソフト更新の進捗率		実績値			100	%	
		目標値			100		
		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
	事業の評価・課題	A 市内各地でのロケ撮影や映像編集等を完了し、教科書に沿った内容で分かりやすく、かつ鑑賞者が興味を引くような構成にすることができた。 今後は、小学校3年生の見学学習で有効に活用するとともに、見学学習以外の活用方法を検討する必要がある。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	終了 映像ソフトの更新が完了したため、今後は、令和2年度以降に実施する小学校3年生の見学学習の際に、博物館の視聴覚室にて映像ソフトを活用し郷土学習を行う。 また、映像を補完する補助的なツール（子ども向けの解説やワークシートなど）の開発や、教材としての各学校への貸出、展示・イベント等での活用などを検討する。				
		令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位		
			令和元年度の単年度事業のため令和2年度の目標なし				